東京都立練馬高校 同窓会会報

銀杏の朋（いちょうとも）

銀杏の朋 第4号
1997年9月1日発行
発行：東京都立練馬高等学校同窓会事務局
〒107 練馬区春日町4－28－25
TEL 03－3990－8643
編集：銀杏会会報委員会
題字：三浦貞子

'97年度同窓会総会（&懇親会）のご案内

'97年度同窓会総会を下記のとおりおこないます。
総会での意見交換、執行部への質問等はもちろん
また、クラス会、同期会等にもお役立て下さい。

日時：1997年11月8日（土）PM 2:00～
※総会（1時間程度）が終わり次第懇親会を始めます。
場所：都立練馬高校会議室
会費：2,000円
議題：1997年度活動報告および1998年度活動方針
1996年度決算および1998年度予算の承認

更なるご支援を！

同窓会会長　伊藤　久雄

新秋の候、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃は本会の活動に対しましてご理解・ご協力を賜りまして、まことに有難うございます。この紙面を借りましてお礼申し上げます。

お陰様をもちまして、ここに「銀杏の朋」第4号をお配りすることができました。以下に昨年度の「銀杏会」活動内容を報告したいと思います。

第一に96年11月9日（土）に母校・大会議室にて総会を開きました。お世話になった先生方4名・正会員22名の参加を得ることが出来ました。

総会では95年度決算報告・96・97年度予算案・〔新役員・理事〕の承認・96・97年度活動方針が賛成多数で可決されました。〔新役員・理事〕・96・97年度活動方針はそれぞれ以下のとおりです。

【新役員・理事】

名誉会長　近藤　淳一（母校校長）
会　長　伊藤　久雄（77年卒）
副会長　加藤　佳美（79年卒）
会　計　矢野　正弘（77年卒）
書　記　川島英無礼（93年卒）
理　事　川島恵美子（68年卒）
理　事　小菅　英明（73年卒）
理　事　三浦　喜雄（75年卒）
理　事　小沢　直彦（75年卒）
理　事　山本　圭一（94年卒）
会計監査　近藤　邦夫（73年卒）

【96・97年度活動方針】

新入会員費を97年度3年生より現行一、八〇〇円から三、六〇〇円に値上げする。

〔理由〕
①会報発行・郵送に毎年、最低でも百三十万円かかり、現行の会費のままだと二〇〇三年度より会報の発行が不可能になるため
②他の都立高校同窓会に比べて本会入会金（永久会員費）が格安であること

〔例〕
武蔵丘高校　五、〇〇〇円
大泉高校　五、〇〇〇円
大山高校　五、〇〇〇円
石神井高校　五、〇〇〇円
向丘高校　六、〇〇〇円

この会費値上げ案に対しては出席者全員から承認が得られました。これを受けて、私が母校・PTAと折衝し、97年5月17日（土）のPTA総会で最終的に承認されました。

この値上げにより会報の寿命が延びたといっても、それはたかだか二〇〇七年度までしかありません。会報の発行を継続するためには新入会員費の値上げだけではなくて、他の方策を考えなくてはならないのは自明であります。すでに寄付金のお願いはしておりますが、会員諸氏におかれましては経済的なサポートだけではなく、是非、よい知恵を我々執行部に貸していただきたいと考えております。

さて、話は変ります。私が会長を引き受けてから九年が経ちました。「母校の同窓会がピンチだ。名前だけでよいから貸してくれ」と高校時代の友人に言われ、少しでも役に立つならという気持ちと会長職はそんなに大変ではないだろうという安易な気持ちで引き受けました。少しまじめに考えれば会長は同窓会のトップで最終的に責任を取らなければならない、文字どおり重責であることは分かりそうなものですが、生来のんきな私は簡単に会長になってしまったのでした。

それからが大変でした。同窓会の核になる、実際に仕事を進めて行く幹事会・理事会がほとんど機能していないのです。誰が幹事や理事であるのかが引き継ぎがないために分からない（とは言っても、これは前任者を責めているわけではありません）。つまり、会長以下、数人の理事は存在するがそれ以外は誰もいないという状況で同窓会再建に乗り出さなければなりませんでした。

会長になってから現在に至るまでの苦労話は今回は省略しますが、在学中、特に愛校心が強かった訳ではない自分が、こうして会長を続けているのは実に不思議な気持ちがします。

私が会長を続けているのはもちろんその大部分が責任感からですが、それだけではありません。今日の自分があるのは諸先生や同級生のおかげであるという実感と、特に同窓生諸氏から寄せられる感謝・はげましの声によるものです。現在の状況下で銀杏会を運営して行くのは実に大変でありますが、みなさんの声援を心の糧として続けられる限りは会長として頑張ろうと思っています。これからも物心両面にわたる同窓生のご支援を心からお願いいたします。

母校という言葉のひびき

校長　近藤　淳一

今年の四月に練馬高校に赴任しました。宜しくお願い申し上げます。

はじめに、練馬高校の現状を簡単に紹介します。平成六年度から教育課程を大きく変え、「大幅選択制」で学校作りを行っています。生徒一人ひとりの個性や適性を大切にする教育課程で、他校では見られない内容です。学校行事、部活動も活発で生活指導をきちんと行っていることと合いまって、生徒は落ち着いていて、学校は安定しています。

さて、母校への意識ですが、三十年前の卒業生でも、この三月の卒業生も母校のことを思う時、在学時代の記憶が鮮明に蘇えるでしょう。楽しい思い出、苦い思い出等いろいろあると思います。人生の一ページとして母校を語る時、母校へのなつかしさが彷彿としてくる。概して、青春時代の大切な意識として、母校での思い出は心中に去来するものです。

教職員一同、母校として誇りを持てる学校作りに力を注いでいます。

学校作りのうえで、銀杏会の会員の皆様にお力をお借りすることもあるかと存じます。その節には宜しくお願いいたします。同窓会や学校行事等の時、母校に顔を出し後輩諸君や教職員を叱咤激励していただければ幸いです。

卒業生からの便り

母校への応援団員

一期生　諏訪　信一

練馬高校を卒業してから30年余がたつ。日々の生活に取り紛れ、時間の経過とともに母校への記憶も薄れつつある反面、もうすぐ五十路に手が届く歳となった昨今、思い出の小石もキラリと光る。

誰でも自己のライフステージにライトがあたり、輝く瞬間があるものだ。それは多感な少年期から青年期にかけてあることが多い。良きにつけ、悪しきにつけ高校時代の鞄の中に、いくつかの小石を見つけることができる。

最近、都立高の統合・改編の見出しが新聞に載った。少子化に起因するものだが、これにより個性や特色のある学校づくりがされるという。

戦後のベビーブーム期の団塊の世代と呼ばれた我々の、高校入学を取り巻く環境は厳しく、急増する生徒に校舎建設が追いつかず、二年間の間借り生活を余儀なくされたことを思うと、隔世の感を覚える。

わが母校も、21世紀へとつながっていく立派な高校に発展してほしいと、すべての同窓生諸君が心にいだいているに違いない。その思いを成すべく、一人ひとりが母校の応援団員となろうではないか。そして機会あるごとにエールを送り続けよう。

思い出

七期生　中原　芳宏

私が入学した頃の学校は、周りは畑ばかりで、授業中にモンシロチョウが教室に入って来るような所でした。今思うととてもなつかしい風景なのですが、最近の様子は全く違っていて少し残念です。

ちょうど制服が廃止され、自由な服装で通学できるようになったときに入学したのですが、結局学生服で行くことにしました。（その後新しい制服ができたようですが。）

また、運動会が全校球技大会にかわり、卓球とバレーボールに出たことを覚えています。

私は現在中学校の教員をしておりますが、高校を訪問すると、当時の先生方に会うことがあります。その度に、高校時代のことを思いだし、話も弾みます。

軟式テニスの練習が終った後で

十期生　山下　英一

十期生の山下英一です。練高同窓会会長の伊藤久雄君が、軟式テニス部のひとつ下の後輩ということで懐しく思っています。その頃の思い出にふれてみます。

当時は、硬式テニスもまだ、ポツリポツリと学校内で見かけはじめたといった時代であり、私たち軟式テニス部は部員も多く、コートのすぐ横の校舎に毎日ゴムボールの音を響かせながら「テニスは軟式だ」と盛り上っていました。

しかし、今あらためて思えば、そのような中で一番楽しかったのは練習後の帰り道だったような気もします。パンをほおばりジュースを飲んでおしゃべりをした後、仲間と自転車を連ねダラダラと時間をかけて練馬の畑、住宅街を抜けながら、また時には、川沿いに銀杏の木の下を走りながら出来るだけゆっくりと帰ったのを覚えています。ただ豊島園の坂を上るのだけは競争でしたが…。

卒業後、軟式テニス部がどうなっていったのかは、いつのまにかわからなくなってしまいましたが、またあのときの仲間とのんびり遊びたいものです。

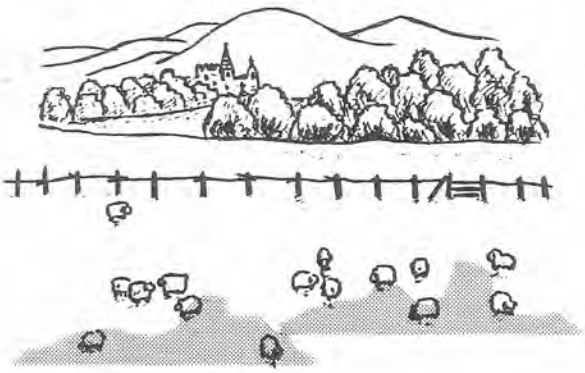
みんな元気ですか。

グランドピアノが好きになった私

二十八期生　鈴木　重光

先日、高校時代の事を懐かしく思い、久し振りに練高の校門をくぐりました。一通り校舎内を歩きながら特に思い出深いあの音楽室へと向かいました。階段を上るにつれて、吹奏楽部の練習する音が聞こえて来ました。思い切って中へ入ってみると当時の授業の雰囲気が甦りました。お世話になった斎藤先生の姿が見当たらず、部員の子に尋ねると先生は離任式の日までいらっしゃらないとの事なので、その日は残念ながら、帰る事にしました。

そして離任式当日、私は実に三年ぶりに斎藤先生と音楽室で再会する事ができました。先生はあの頃と変らぬ優しい眼差しと包容力のある方で、とても安心しました。当時私が二年生の時、クラスのピアノ弾き語りの上手な高橋君に影響されて次第にピアノに魅かれ、触れてみるようになりました。又、先生の御好意で毎朝早くからグランドピアノを使わせて頂き、夢中になって練習に励んだ日々を思い出しました。あの頃の思いを込めて、先生に私のつたないピアノを聞いていただいた事が大変嬉しかったです。高橋君への感謝の気持ちと練高三年間の思い出と共に今後一生忘れられない貴重な思い出となりました。



From the Teachers

練馬高校追憶

第四代校長　加藤　正春

都立練馬高校の同窓生が九〇〇〇名を越えるとのこと喜ばしい限りです。

私は昭和五六年（一九八一年）から三年間、練馬高校の校長として勤務させていただきました。その後は私立高校に移りましたが、公私高校勤務四四年のうち、練馬高校はとくに想い出の多い学校の一つです。何よりも、在任中創立二十周年を迎えその歴史浅しといえども、その重厚さには感動しました。初代校長の鈴木満令先生は私も知る方の一人ですが、練馬高校の教育の根ずいを築かれた方で、多くのすぐれた先生方が活躍され、同窓生の方がたも想い出深いものがあると思います。

私は練馬高校着任前、五校の経歴をもっていましたが、ここには、いわゆる学校紛争もなく、落着いた教育が行われており、それが続いておりました。都立高校の入試選抜制度は変転しつつも、練馬高校の教育姿勢は厳然として変わらず、むしろ、より以上の教育が行われて来たと思います。「入学した時の実力以上のよい大学に進学できる」「より以上の就職ができる」との評判が高かったときいていました。

同窓生の皆さま、練馬高校に誇りを持ち、ご健闘されるよう祈ります。

ご無沙汰を詫びながら

社会科　大間　一男

私が練馬高校を去ってから二十二年たちました。その間に、新校舎が建ち地下鉄が通って、練高もその周辺の環境もすっかり変ってしまいました。しかし、私の脳裏には、キャベツ畑に囲まれた白亜の殿堂が、校庭の雲雀の鳴き声とともに焼きついています。また、奥日光の戦場ケ原に谺した生徒達の歓声や、修学旅行で見た燃えるような奥入瀬の紅葉など、懐かしい思い出は少しも色褪せていません。

特に、「先生、私達は何のために勉強するのですか。」「教育って何ですか。」「卒業とは？」と真正面から問い掛けて来た生徒諸君の眼の色は今だに忘れることができません。

私は練高を転出してからは、田園調布高校で教頭を六年、板橋高校と江戸川高校で校長を七年勤めて、平成元年三月に停年退職をしました。その後三年間、皇居の中にある皇宮警察学校で、我が国の伝統文化に触れる毎日を過ごし、現在は、跡見女子大学で地歴科教育法を担当しています。比較的時間にゆとりがありますので、気が向くと奥武蔵の山を歩いたり、安曇野や白馬山麓まで車を走らせてアルプスの山並を眺めたりして、気儘に暮しています。卒業生の皆様、お元気でご活躍下さい。

練高での思い出と近況報告

英語科　神宮司喜一

お世話になりました先生方、楽しい日々を共に過ごした卒業生の皆さん、お元気でしょうか。五十を過ぎ、だいぶくたびれて来ましたが元気に暮らしております。

現在も氷川台に住んでおりますので、近くで立派なお母さんやお父さんになられた卒業生をよく見かけます。またわが子の同級生の父母が練高の卒業生で、保護者会で顔を合わせたり、時には飲んだりカラオケに行くこともあります。最近では卒業生のお店で昔話をしながら散髪をしてもらっています。十六年も勤務したのですから思い出はいっぱいです。教室の窓から見た芋掘りの子どもたちや、麦畑から舞い上がるヒバリのこと。球技大会のあの歓声。杉並公会堂でのミュージカル。合宿のこと。文化祭で生徒と一緒にお化けになったこと。授業中に政治のことばかり話すと生徒に非難されたこと。同期の先生と沖縄返還を求める集会に何度も参加しデモ行進したこと。次ぎ次と浮かんで来ます。

六十一年に王子工業へ転勤し八年勤務。そして平成四年江東区の東高校に転勤し四年目となります。飾らない下町っ子と楽しく生活しています。定年が見えてきました。担任をやり終えて退職を目標にしています。練馬高校の発展と同窓の皆さんのご健勝を願っております。

罠の教訓

理科　田村　至

物理室は2階、その真上が生物室である。時は秋の放課後、南に面した物理室の前に雑草園なる草むらがあり雀が多数群れておりました。私は子供の頃よく遊んだ雀とりをつくり雀を捕まえようと思い物理室にあった煉瓦（本来運動量の実験に使う）を4つ前庭にもって行き罠を仕掛けて戻り暫く見ていましたが、かかりそうもないので雑務をこなして再び窓から下を見ると煉瓦が塞がっており、大成功です。私は胸踊らせて（若かったんですね）煉瓦の下の空間にいる雀を取り出そうと慎重に煉瓦を持ち上げて手を入れたところ雀がいる筈なのにいません、手で探ってみると紙片が触りましたので、摑み出しました。そこには「生き物をいたわりましょう」と書かれていました。辺りを見回わしても誰もいません。上方からの視線を感じ見上げると生物室から私を見おろしている複数の人を確認、彼らは生物部の生徒でした。その中に温厚な笑顔でこちらを見ている顔があり印象的であった。後で知ったことであるが彼が小沢直彦氏（現練馬工業高校教諭）の若き頃の姿であり、書き主でもあった。私は1本取られたなと同時に、教師として多くの教訓を得ました。30年近く経った今も練馬高校と聞くとこの情景が脳裏をかすめます。

お便りコーナー

以下のお便りは1996年の総会出欠ハガキから拾ったものです。この他にも多数の方より思いのこもったお便りを頂いておりますが、紙面の都合により掲載できないことをお許し下さい。敬称略
（編集者一同）

▼現在、豊多摩高校に勤務しています。同じ学区のため練高の様子がよくわかります。ぜひ、昔の伝統ある学校に復活してほしいものです。
社会科　山田邦彦先生

▼連絡ありがとうございました。今杉並区にある私立菊華学園に勤務しています。当日は所要のため欠席しますが盛会でありますよう祈ります。
社会科　西　秀夫先生

▼練馬高校にはS.57.4～H.2.3まで8年間勤務しました。ちょうど校舎改築期にあたり、プレハブ校舎で2年近くも授業をやりました。当時の先生方はもうほとんど残っていないでしょう。20周年記念誌の編集にあたって全力を尽くして取り組んだものでした。8年間自転車通勤に徹しました。おかげで練馬区内の地理にはかなり明るくなりました。
英語科　佐藤　正先生

▼昭和59年練馬高校長退職後、成徳中・高講師、葛飾養護学校（3ケ月）、目白学園（2年）、十文字学園（2年）。現在は無職。古くから住んでおりますので町会役員として地域のため働いております。弟が小石川高におり、体育大会に行った所、練馬から小石川高に出られた先生方にお会いし、歓談しました。小生も同校卒なので昔の話などを…。
第五代校長　岩田利久郎先生

▼現在は国立国文学研究資料館史料館館長として勤務しています。
社会科　森　安彦先生

▼平成8年3月に都立小岩高校長を定年退職。現在は嘱託として都立農産高校に勤務しています。農産高校は実習を主体とする、いわゆる農業高校であり、これまでがすべて普通科高校だったため、逆に現在の高校としてはとても新鮮でおもしろい面があります。
英語科　斉藤　弘先生

▼ご苦労様です。当日は前任校の卒業生の結婚式のため出席できません。皆様によろしくお伝え下さい。
数学科　吉沢源道先生

▼当日はすでに予定が入っておりますので、出席できず残念です。練馬時代の仲間、高田俊治先生（都立足立高校長）、渡辺義正先生（都立久留米高校長）と時々練馬高校の話をしております。ご発展を祈念申し上げます。
体育科　川端春生先生

▼異動してからも何かとバタバタしています。当日も予定が合いそうもありません。
理科　降幡高志先生

▼現在、北里大学の教職課程の教授として勤務しています。土曜日は勤務の一番多い日なので残念ですが欠席いたします。ご盛会を心から祈念いたします。
社会科　山口俊治先生

▼只今、フレンド幼稚園の園長としてがんばっております。園児の姿を見ると教育の原点にふれる思いがします。
社会科　三條和男先生

▼「銀杏の朋」をご送付いただき、拝受いたしました。総会のご案内もありましたが、当日、会議がありますので欠席します。総会・懇親会のご盛会を祈ります。
理科　柴　隆三先生

▼東京都を定年（都立武蔵高校を最後に）し、現在近くの私立高校に勤めています。
数学科　遠藤安郎先生

▼ご案内をいただき、ありがとうございます。ご盛会を心よりお祈り申します。
第五代教頭　大和田一造先生

▼役員の皆さんの努力で同窓会がりっぱに運営されていてうれしく思っています。現在も現役の教授として城西大学に勤めています。今春4月、1回生の同期会に出席。皆さんの活躍ぶりに感激。
国語科　青木一男先生

▼神奈川県に居住するようになって8年目を迎えました。職場も神奈川であり、母校の地から幾分遠ざかって、なかなか行く機会もなくなったというのが現状です。「銀杏の朋」毎号楽しく読ませていただいて、高校生活を懐かしんでおります。ますますのご活躍をお祈りします。
'67年卒　沼田　甚吉

▼3回生（'69年卒）6組は毎年秋には必ず担任された滝山常男先生とともにクラス会を開いていて、楽しいひとときを過ごしています。幹事は毎年、次の会の2名（男・女）を推薦してから一次会をお開きにして、二次会からは数人帰ってカラオケに行きます。
'69年卒　妙林　由利

▼新しくなった校舎に一度対面してみたいとは思うのですが、なかなか出かける暇がありません。来年も学校で同窓会の予定があれば、是非参加したいと思います。
'70年卒　戸谷　初代

▼「銀杏の朋」3号をありがとうございました。先生方や卒業生のお便りコーナーをなつかしく読みました。（今年、25年ぶりに銀杏祭を見学し、新しい校舎、立派な武道場にびっくりいたしました）。練高の発展を心からお祈りしております…。
'71年卒　深野　智子

▼「銀杏の朋」懐かしい思いで読ませていただきました。近くに住んでいれば是非お手伝いしたいのですが残念です。いつか母校を訪れる機会を是非作りたいです。
'72年卒　熊谷　幸枝

▼「同窓会だより」、送ってくださってありがとうございます。役員の中に「近藤サン」と「小菅クン」の名前を見つけて、とても懐かしく思いました。大阪から動くこと

お便りコーナー

はないのでなかなか伺えないとは思いますが、これからも「同窓会だより」送って下さい。楽しみにしています。

'73年卒　大野　玲子

▼ここ4～5年バレー部の仲間達と一年に一度会うことが出来るようになりました。子育ても一段落して少しはゆっくりとした時間が持てるようになってきました。今回は出席できませんが、次回は是非新しくなった校舎を見に出掛けたいと思います。

'74年卒　星野　智子

▼会報ありがとうございました。美術の近藤先生と同様、私も、今年8／21～25、韓国へ旅をして参りました。そこでは学校で教わらなかった真実がたくさんありました。私も教育にたずさわる者として、この事実を子供達に伝え続けようとおもいました。

'76年卒　根田　和子

▼昨年12月に第4子を出産し、育休中です。今は9ケ月の娘とのんびり、でもアッという間の日々を過ごしています。練高の時は硬式テニス部で青春してました！(同好会からクラブになったときでした)。みんなで揃えたジャンパー、まだ衣装ケースの中で思い出と共に健在です。そうそう、すぐ近所に後輩がいることもわかりました。小学校1年生の娘の同級生のおかあさんでした。

'77年卒　小山（伴）由美子

▼緑川先生のお手紙がなつかしくて楽しく読ませていただきました。大好きでした。厳しいだけではない先生だったと思います。数学の担当だった佐々木先生も好きでした。今はどうしていらっしゃるのか近況が知りたいです。

'78年卒　半井　真美

▼1歳の三男を連れてでも出席したい気持ちですが、実家の父が重体のため、今回も総会は欠席させていただきます。3人の息子を育てながらの共稼ぎ・遠距離通勤は睡眠不足との戦いですが、わが子は可愛いし、苦しいときほど人のやさしさ、暖かさが心にしみます。練高時代も悩み多き乙女でしたから、一緒に悩んだり励ましてくれた友人達や先生方のことが忘れられません。名簿を介して15年ぶりにクラスメートより便りがあった時はとてもなつかしく、うれしかったです。委員の皆様、ありがとうございました。

'80年卒　伊藤　深雪

▼スチュワーデス生活にピリオドを打ち、2児の子育てに追われる毎日です。そんな生活で青春時代を思い出す同窓会だよりを楽しく拝見しております。

'81年卒　阿部麻美子

▼平成6年4月に引っ越しました。今は福祉の仕事をしていて、土・日も働いております。体を動かす仕事の方が自分には合っていると思います。9月23日には1年からずっとクラスメートだった池田誠君と一緒にいろんな話をして楽しかったです。

'82年卒　東　洋一

▼転勤族のわが家は東京→新潟→神戸へとやって来ました。遠く離れてもこうやって同窓会便りが送られてきて大変嬉しく思います。これから先もどうぞよろしくお願い致します。

'84年卒　川北（西尾）祐子

▼帝京大学眼科研修医として1年半。母校の発展を念じております。

'89年卒　東出雄志郎

▼今年、ジェネラルミッションに就職が内定しました。そこで約半年が経ちましたが、だんだん慣れてきて何とか頑張っています。仕事の内容は主に自動販売機に関するパソコン入力です。

'91年卒　村上　毅

▼私は今、保育者になるため、専門学校で学んでいます。つらい事もたまにはありますが、いつも練高時代の友だちにはげまされ頑張っています。練高で一緒だった友達は今もよく会ったりしています。一生つきあっていくことの出来る友達に出会えた練馬高校が私は大好きです。近々、皆に会える日を楽しみにしています。お世話になった先生方にも会いたいです。

'94年卒　白川真由美

▼現在、浪人中。勉強は嫌いですが頑張っています。来年こそは大学生になって充実した毎日を送る予定です。総会、行くことが出来なくて申し訳ありません。はたして私たちの年代は何人集まるのでしょうね。

'96年卒　松原　和枝

▼年齢を重ねるにつけ、学生時代が懐かしく思われます。今は子育てに追われる毎日なので何年か先、落ち着きましたら総会に出席してみたいと思います。

'79年卒　渡辺　優子

▼今年の8月3日に待望の第一子「由梨」（長女）が誕生しました。「たより」を見ると、いつも「練高」での思い出がよみがえります。

'85年卒　市座　政由

▼昨年8／27に結婚し、来る10／21出産予定の只今妊婦です。結婚し練馬を離れましたが、実家に来た際に練高生の姿を見ると、なつかしく思います。校舎もきれいになりましたが、あの古く、雨漏りのする体育館は部活をしていた頃のなつかしさがあり、残念な気もしました。役員の皆様、お忙しいと思いますが、頑張って下さい。

'86年卒　糸井（加藤）明子

▼いつもこうして手紙を送って下さり、ご苦労様です。封筒を開けると、練高時代のなつかしい思い出がよみがえってきます。誠に勝手ながら私自身忙しくて、皆様のお力になるのは難しいかと思いますが、これからも楽しみにしていますのでよろしくお願いします。

'87年卒　井上　幸子

▼現在、静岡の方で修業しています。あと2年で実家に帰り、家の仕事を継ぎます。

'95年卒　大代賢太郎

同窓会担当より

練馬高校の現況

地歴科　堀内ひろ子

練馬高校卒業の皆様には、それぞれの分野でご活躍のことと存じます。

練馬高校は現在十八学級・六七四名の生徒が学んでいます。校舎も改築され、教育課程も一新されて創立三十四年目を迎えた練馬高校の現況について、卒業生の皆様にお伝えいたします。

大幅選択制を導入した教育課程

本校は平成六年度より全日制普通科課程としては都立高校唯一の大幅選択制を取り入れた教育課程を導入し、四年目を迎えました。百を越える選択講座の中から、生徒たちはそれぞれの自分の興味・関心のある分野の講座や進路に即した講座を選択して学んでいます。生徒は講座選択にあたっては自分の進路をよく考え、担任や保護者、教務・進路部の先生とよく相談して決定をします。したがって一年生の早い段階から進路について考えたり、調べたりする必要があります。そのため講座選択の時期にあわせて説明会を年に二回行い、生徒の意識を高め講座の内容がよく理解できるよう努めています。

二・三年生になるとクラス単位の授業より選択クラスの授業が多くなり、行事・委員会活動等では工夫が必要です。また、H・Rや清掃の時間帯も学年や曜日により異なります。さまざまな面で苦労も多いのですが、生徒一人一人の個性や適性を大切にし、本校に学ぶ生徒が豊かな感性と創造性に富んだ青年に育っていくことを願って日々の教育活動が行われています。この大幅選択制や特色ある講座に魅力を感じ、本校を志望する中学生も増えています。

部活動

文化系は十、運動系は十七の部やクラブ・同好会が活動しています。

高校生の部活動離れの傾向は本校でも例外ではありません。しかし、サッカー部や男子バスケット部・女子バドミントン部などは多くの部員を擁し、文化系では吹奏楽部・演劇部が活発で、二〇〇㎜屈折式天体望遠鏡を備えた天文台では天文部が観測を行っています。

その一方で、部員獲得に苦労する部もありますが、部員たちはそれぞれ熱心に活動を続けています。

以上、簡単に練馬高校の現況についてお伝えいたしました。九月二十・二十一日の両日は銀杏祭が開催されます。この機会にぜひ久しぶりに母校に足をお運びいただき、現在の練馬高校を実際にご覧いただければ幸いに存じます。最後に、卒業生の皆様には、母校について益々のご理解とご支援をいただきますようお願いする次第です。

同窓会クラス幹事

（一九九一年度～一九九六年度分）

現在判明しているのは以下の幹事です。これ以前の分は引き継ぎがなかったために不明です。クラス会を行う場合には幹事に連絡するか、自発的に幹事になって下さい。

【一九九一年度】

組	男	女
一	細野　哲志	田中　正美
二	中村　晋也	石上　浩代
三	笹木　勲	脇田明日香
四	間淵　洋介	永田　香織
五	岸　秀亮	山田　奈央
六	大前　文吾	小田切絵麻
七	牧野　泰	村野　百合
八	成尾　豪	市毛　祐子

【一九九二年度】

組	男	女
一	貝原洋一郎	飯田　幸江
二	藤代　将	天野　一美
三	岡村　諭	高橋由紀子
四	廣田　匠	重光　理英
五	松田　照章	佐藤由加里
六	大須賀昭宏	松原　弘恵
七	安島　高明	古橋　生子
八	金子　洋治	渡辺亜希子

【一九九三年度】

組	男	女
一	桝本　太	広谷　亜貴
二	木下　強	吉岡　慶子
三	山本　圭一	小池　綾子
四	鈴木　重光	中島　敦子
五	上原　武	出水田昌子
六	森山　彰	上石　和美
七	粂川　智博	服部　弘子

【一九九四年度】

組	男	女
一	小口　泰雄	高木　智子
二	遠藤　和行	太田　慶子
三	門出　洋	佐藤　伸恵

【一九九五年度】

組	男	女
一	石手　貴幸	米山あゆみ
二	井上　光春	遠藤　麻耶
三	横山　淳史	森田麻利子
四	大沼　治男	原　陽子
五	舟木　敏勝	小笠原位江
六	入江　寛	木邨亜由美
七	竹内　稔	和田　裕子

【一九九六年度】

組	男	女
一	山田　直人	松田　絹子
二	高橋　将敏	柳沢真理子
三	荒山　哲也	岡　智美
四	阿部　博	近藤久美子
五	小日山健太	関根麻起子
六	大澤　寿	小林　ゆい
七	越井　陽一	池上　弥生

四	八重樫真一	平石　百合
五	寺島　秀士	右田美津江
六	猪狩　隆	木村　明美
七	柴　達也	川又　真琴

同窓会々員の情報収集にご協力下さい!!

現住所の判らない会員の方がいらっしゃいます。ご存じの方がいらっしゃいましたら、返信ハガキか封書で、卒年・組・住所・氏名・電話番号をお知らせ下さい。よろしく御願い致します。

原稿・写真大募集

クラス会・OB会等の写真・原稿（400字～800字）をお寄せ下さい。次回同窓会会報発行時に掲載致します。懐しい仲間との楽しい場面をお待ちしております。氏名・住所・卒年などを明記してお送り下さい。

寄付金御芳名

卒年	クラス	姓名
67	5	森下昭夫
68	1	林むつ子
	4	小池一太郎
		福島進
	5	角野美砂子
		宮下みよ子
69	2	小林勝
	3	久古節子
	6	星名敏則
		三村光太郎
70	3	戸谷初代
		中村あけみ
	4	久山降之
		高木純一
72	7	鶴田徹
73	4	北村恵
		藤城祐子
	5	篠原淳一
	7	高瀬祥子
	8	上原進
		高橋祥子

卒年	クラス	姓名
74	2	廣岡章子
	3	清川直美
	5	石井富美江
	6	黒臼祐子
75	1	森川透
	2	萩野谷薫
76	3	北館祐子
		花塚武雄
	5	竹村信雄
77	6	首藤紀夫
78	1	堀尾克彦
	6	外由美子
79	1	荒井和寿
	3	手塚健郎
	4	長妻昭
80	3	犬丸美佳
		久保和則
81	1	榊啓高
83	5	和田さゆり
84	5	久保川浩史
85	7	市座政由
		小川真治
	2	東出雄志郎
89	7	高須謙一

卒年	クラス	姓名
90	5	岡林達郎
91	7	神谷みのり
92	3	鶴見嘉之
	7	長谷川洋一
93	6	小林裕史
	7	安島高明
94	4	江口壮太
95	5	守田淑香
96	4	小笠原あゆみ
	5	舟木敏勝
	7	川島勝
職員		清水芳彦
		関野憲雄
		高田俊治
		友野正雄
		友山登紀子
		西秀夫
		本山義則
		森杉多
		渡辺義正

多くの卒業生および職員より寄付を頂き有難うございました。
すこしでも充実した同窓会に出来るようがんばりますので今後ともよろしくおねがいいたします。

返信ハガキを書くときのお願い

名簿委員長　矢野　正弘

会計と名簿委員と2足のワラジをはいて、更に名簿委員は小沢さんと私の2人しかいない委員長を務めています。

名簿の管理や手順が軌道にのり始めたので昨年よりは少し楽になっています。そこでもっと楽になりたいので皆様に何点かお願いがあります。ご協力下さい。

(1) 住所変更などには必ず郵便番号は入れて下さい。調べるのに非常に多くの体力を使います。

(2) 住所変更と共に電話番号も変更になると思いますが、差障りがなければ是非書いておいて下さい。住所の変更があって電話番号の記載のないものは電話番号の欄から削除しています。

(3) 添付の振込み用紙にデータが記載されているはずですが空欄が合った場合にも返信のハガキに書いてご返送下さい。

(4) 読み難いであろう漢字などにはフリガナを振っておいて下さい。およそ練馬高校を卒業した程度の知識レベルでお願いします。

以上、よろしくお願いいたします。

事務局より

同窓会組織をまとめてみますと、右の図のようになります。本来はクラス幹事の中から各期の代表幹事を選び、さらにその中から理事を選ぶのですが、1990年度以前のクラス幹事が不明のため、このシステムでの同窓会運営が不可能になっています。したがって現在の同窓会は93年度の総会で理事に選出されたメンバーが継続して運営しています。本来ならば理事は持ち回りで行うのが望ましいと思われます。是非、多数の同窓生に総会に参加していただき、理事として活躍していただきたいと思います。

理事は以下のいずれかの委員会に所属し活動します。**まだまだ人手不足で困っておりますので**（例えば、今回は会長の私が会報の責任者でした）、少しでも手伝っていただける方は事務局までご連絡下さい。

◎総会委員会：総会開催の企画、運営について担当する。
◎組織委員会：同窓会組織の活性化を図る。
◎名簿委員会：同窓会名簿の作成を担当する。
◎会報委員会：同窓会会報の作成を担当する。

同窓会組織略図

名簿委員会からのお願い！

同窓会名簿の情報を、ダイレクトメール・商品勧誘等に流用することはお止め下さい。
信頼関係を損なう恐れがありますので。

★同窓会事務局ではよりよい同窓会組織の維持発展のため、次の5項目の活動を考えています。

1. 5年に1度の同窓会名簿発行
2. 1年に1度の同窓会会報発行
3. 総会の開催（卒業生による運営に関する意見交換や意志決定の場。）
4. 同窓会総会後の懇親会（飲み食い会）開催。（尚、クラス会、同期会は、自主的に行って下さい。）
   〔同期会の開催などには、事務局としても出来る限りの援助を致しますのでご一報下さい。〕
5. その他の事業の企画・運営など（可能性）。

同窓会協力者、募集！

同窓会事務局では、現状を同窓生諸氏にご理解していただき今後の同窓会の発展を目指したいと願っています。まだまだ多くの協力者の援助を要します。都合のよい時だけで結構ですから、協力していただける方はご連絡を下さい。　（連絡係：三浦　喜雄）

事務局への連絡方法

新たに住所・連絡先が変更になったり判明した方がいましたら、必ずご連絡下さい。連絡先は、下記のところです。現在、事務局（練馬高校内）には専従者がおりません。総会の出・欠席や事務局への連絡は葉書または封書にてお願いいたします。事務局（練馬高校内）への電話での連絡は、ご遠慮下さい。

連絡先は　〒179 練馬区春日町4－28－25　都立練馬高校同窓会事務局です。

同窓会名簿・同窓会総会・同窓会理事会へのお問い合わせ

☆同窓会総会に関する連絡先：総会委員：近藤　邦夫（℡ 0423-45-3022）
☆同窓会名簿に関する連絡先：名簿委員：伊藤　久雄　〒179 練馬区春日町4－36－1
☆理事会への連絡先　：連絡係　：三浦　喜雄　〒272 市川市新田3-27-15（℡ 0423-79-5412）

会計報告書

■96年度決算書

収入の部		支出の部	
前年度繰越し	6,826,052	総会費	56,640
入会金	385,200	本部運営費	21,437
総会収入	38,000	会報出版費	1,308,818
利息収入	69,755	名簿出版費	0
寄付金	269,990	(名簿出版準備費)	
雑収入	814	通信費	1,040
	(763,759)	事務費	0
		積立金	324,200
		雑費	11,977
			(1,724,112)
		次年度繰越し	5,865,699
合計	7,589,811	合計	7,589,811

■98年度予算案

収入の部		支出の部	
前年度繰越し	5,865,699	総会費	50,000
入会金	720,000	本部運営費	30,000
総会収入	40,000	会報出版費	1,400,000
利息収入	70,000	名簿出版費	100,000
寄付金	270,000	(名簿出版準備費)	
	(1,100,000)	通信費	10,000
		事務費	10,000
		積立金	300,000
		寄付金	0
		雑費	30,000
			(1,930,000)
		次年度繰越し	5,035,699
合計	6,965,699	合計	6,965,699

繰越金

文京信用金庫	定期預金	￥5,287,459
文京信用金庫	普通預金	￥102,471
郵便局		￥74,690
(文京信用金庫	定期預金：積金分)	￥10,943
現金		￥390,136
合計		￥5,865,699

積立金（元金）

文京信用金庫	定期預金	￥590,400
文京信用金庫	定期積金	￥324,200

会報出版費（支出明細）

年	月	日	摘要	支出金額
1996	9	2	プリンター用カセットリボン	1,854
1996	9	2	会報印刷代（富士印刷）	318,000
1996	9	2	封筒、葉書、振込用紙印刷代（伸正社）	215,579
1996	9	14	輪ゴム代	330
1996	9	25	会報封入作業代	38,170
1996	9	26	郵便代7584通＊￥90	682,560
1996	10	17	後納郵便代（受取人払）	7,020
1996	11	11	後納郵便代（受取人払）	43,355
1997	1	8	後納郵便代（受取人払）	1,690
1997	1	20	後納郵便代（受取人払）	195
1997	2	20	後納郵便代（受取人払）	65
			合計	1,308,818

会計報告について

会計　矢野　正弘

まずは、お断りをしておきますが、会報はとかく固い文章ばかりになりがちなので会計が不真面目ではありますが少しばかり砕けた文章で失礼いたします。

で、肝心の会計の報告です。アバウトな言い方ですが予算から大幅にはみ出ることは無かったと思っております。と言っても毎年、残高は確実に減っており、特に今年は寄付金が少なかったことが少し目立ったところです。そんな中で毎年のように寄付をお送りいただいている会員・旧職員の方々には大変感謝をしております。

また、お金の事だけでなく同窓会にもっと関心を持って頂ければ私を始め理事の人もやりがいがあるというものです。是非、声援をお願いいたします。勿論、声援だけでなく実務で応援してくれるのが一番嬉しいのですが…。

最後に決算報告書の表を見ても実状はなかなか分らないでしょうが、この会報で順次詳しく示して行きたいと思っております。今回は出費の中でも一番金額の多い会報の出版費の詳細を上の表に入れておきましたのでご検証下さい。

編集後記

●会報ももう第四号。かつての生徒会を彷彿とさせるような編集会議。あーでもない、こーでもないと議論白熱で夜になり、テイクアウトの寿司を食べながら作った第一号からもう4年。それを青春と呼ぶなら、間違いなく「青春」の入口であった〝練高〟。今、新しい校舎になり周囲の風景も変ってしまったけれど、やはり我が母校。そしてそこに集う人々はやはり同級生たち…。

（第九期生　三浦喜雄）

●今までも会報発行には色々な形で協力してきたのだが、今回は編集の責任者という事でかなり頑張らなければならなかった。「もし、もっと私の自由になる時間があったら」と夢想したくなる毎日の忙しさであるが、とにかく会報第四号を出せてホッとしている。また、お忙しい中、原稿をだして下さった恩師・同窓生諸氏に心から感謝します。

（第十一期生　伊藤久雄）

●開口一番「折角だから総会に来て下さ〜〜い」、それだけ。これだけではつまらないので私の一九九九年の名簿発行構想です。

☆現在の校舎や昔の校舎の写真数点
☆卒年・クラス別会員名簿
☆現職員・旧職員名簿
☆氏名からの索引
☆同窓会会則
☆広告

飾り気はないが低価格で行きます。購入と広告にはご協力下さい。

（第十一期生　矢野正弘）